

HINADAN TERRACE

～埼玉県鴻巣市吹上富士見における共同住宅の提案～

大竹研究室

01812046 岡崎 慎榮

1. 背景と目的

コロナ禍において、我々の生活は大きく変化した。自粛生活が続く中、模然とした不安や不満から多くの人々が、日々、新しいライフスタイルとは何か、居心地の良い空間とは何かと問うている。密閉・密集・密接しない3密回避の観点からアウトドアが注目されている。

埼玉県鴻巣市は、約380年の伝統を誇るひな人形(鴻巣雛)のまちと花卉園芸や稲作が有名である。また、現在では東京の住宅衛星都市としての性格を持つが、かつては中山道の宿場町・鴻巣宿であった。

市西部には荒川、南東部から中央部にかけては元荒川、北東部には見沼代用水が流れ、水が豊かな地域であるが、標高が低く大雨による氾濫が予想されている地域である。

そこで、本研究では、埼玉県鴻巣市内に、周辺の田畑が眺められる共同住宅を提案する。雛壇のようなテラスは、通常時には居住者や地域の住民がコミュニケーションを取れ、災害時には避難施設となる。

2. 敷地概要

敷地所在：鴻巣市吹上富士見3丁目13

用途地域：第1種中高層

敷地面積：3367.92m²

計画地は、最寄り駅である吹上駅までコンビニ、スーパー、図書館などがあり、日常生活において利便性が高い。計画地南側と西側に水路があり、鴻巣市水害ハザードマップにおいて氾濫想定区域に定められ、1000年に一度の大雨の氾濫においては5.0mか10.0mの浸水深さが想定される地域である。

3. 計画概要

1階のテラスを広くとり、2階、3階のテラスを狭くしていることで、雛壇のようなファサードの建築を計画した。また、採光を考慮し、テラスの正面を南面とした。

居住者のプライバシーを配慮するために各住戸を様々な角度に配置し、視線を考慮し、開口と壁を計画した。

【1F】 BBQのできる公園 <居住者+地域住民>

1階はBBQのできる公園として居住者だけでなく、地域住民に開き、コミュニティーの場として活用する。BBQのできるスペースは正面入り口から北に配

置し、地域住民も利用しやすいように設計した。

車15台分の駐車スペースを計画し、居住者用13台、来客用2台とした。来客用の駐車スペースはBBQのできるスペースの近くに計画した。

【2F】 住居 (エントランスとキッチン)

<居住者+地域住民>

2階は居住スペースで、エントランスとキッチンがある。階段は1階のコミュニティスペースから2階のテラスにつながっており、2階のテラスにも居住者と地域の住民が活用できるコミュニティスペースがある。また、テラスには共用の植栽スペースを計画した。

【3F】 住居 (プライベート空間)

<居住者+災害時地域住民>

3階は、住居のプライベート空間を計画する。寝室と浴室、洗濯スペースがある。また、テラスには洗濯物を干すスペースと個人の植栽スペースを計画した。

【4F】 住居 (寝室とリビング)

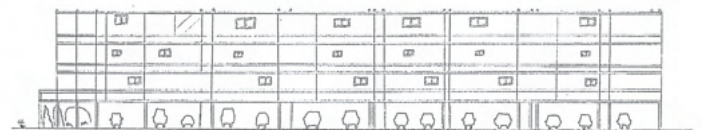
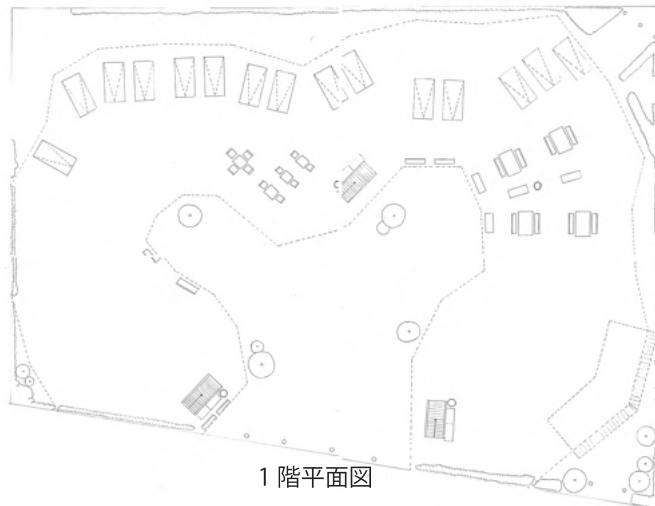
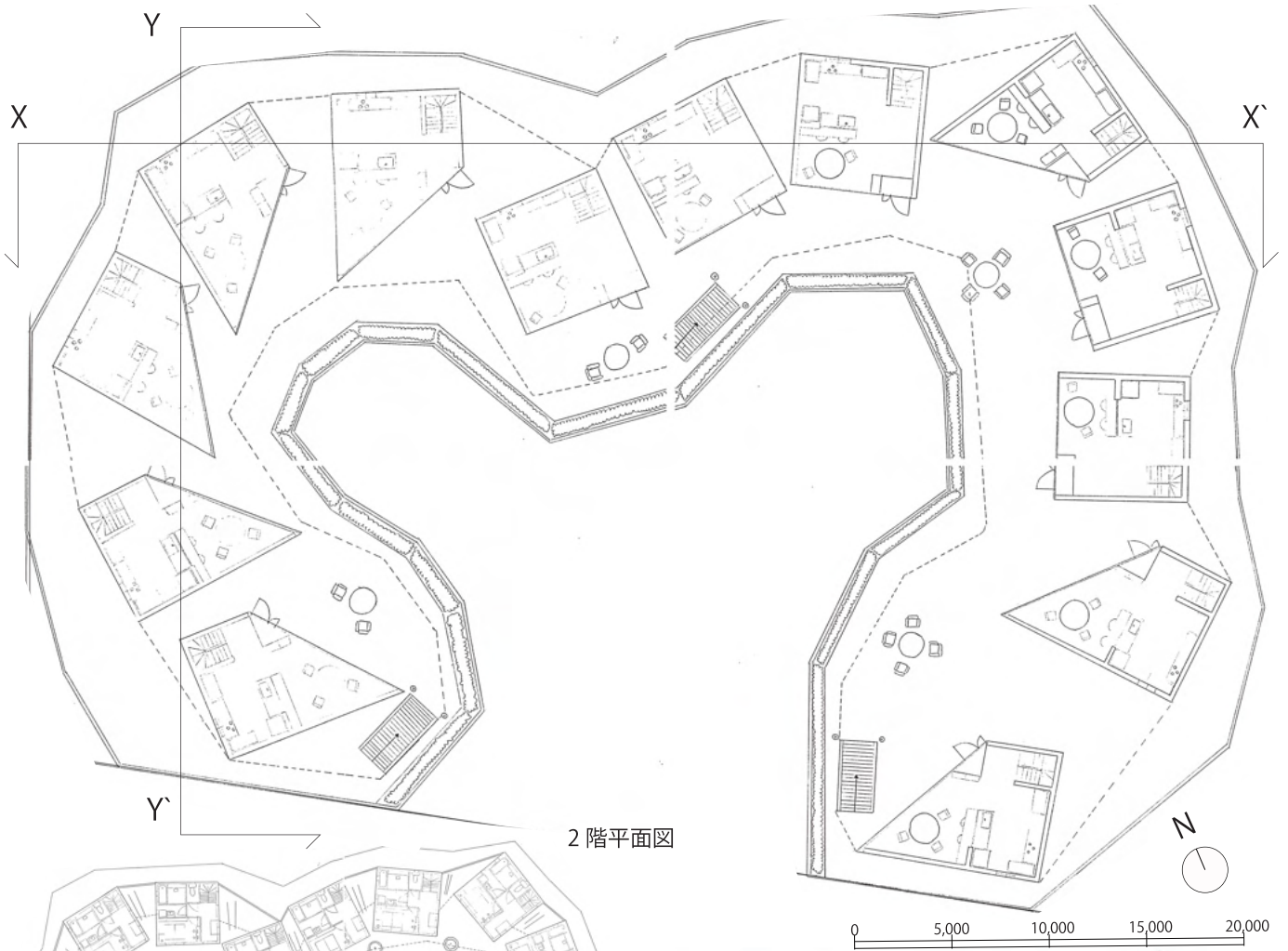
<居住者+災害時地域住民>

4階は寝室とリビングとした。リビングからは雛壇テラスや近隣の田畑が眺められる。また、フロアレベルを10mとしたことで、1000年に一度の大雨の氾濫においては居住者だけでなく地域住民も避難できるように計画した。

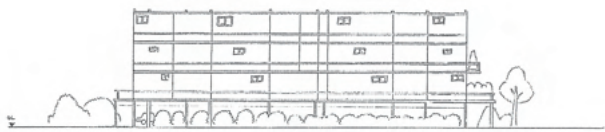
4. まとめ

新型コロナウイルス感染症の流行前の建築は密閉された建物の中の空間を上手く活用した建物こそが効率的な建築だと考えられていた。しかし、現在の新型コロナウイルス感染症の流行において、そのような建築の姿が変わりつつある。これからの建築は密閉された建物の中の空間だけではなく、室外でも室内のように活用される空間が必要となるであろう。

本研究では、住宅の玄関やリビングをテラスや広場などの共用スペースに面して配置し、室内と室外が繋がる建築を計画した。また、コミュニケーションが取れる植栽スペースやBBQなど地域住民が活用できるスペースを提案した。このような共用スペースで、日常的に居住者と地域住民がコミュニケーションを取れるため、地域の安心、安全の基盤となるようであろう。



北側立面図



南側立面図



0 10,000 20,000